

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|---|-----------------|-----------------------------|---|-----------------------|---|-------|---------------|------|---------|---|
| 科目名 | 公衆衛生看護方法IV (管理論) Public Health Nursing IV | | 担当教員 (研究室番号) | 中北裕子 (404) 清水真由美 (408) 他 | | 教員への連絡方法 (メールアドレス) | 中北:yuko.nakakita@mcn.ac.jp 清水:mayumi.shimizu@mcn.ac.jp | | | | | |
| 履修年次 | 3年次前期 | 科目区分 | 専門科目・広域看護学 | | 選択区分 | 必修 | 単位数(時間) | 1(30) | 授業形態 | 演習 | 科目等履修生 | 否 |
| | | | | | | | | | | | オープンクラス | 否 |
| 科目目的 | 公衆衛生看護管理の概要を知り、また、公衆衛生看護管理の一機能である地域診断の目的を十分に理解し、地域に顕在・潜在している保健・医療・福祉に関連する課題をアセスメントするための理論や方法論を学ぶ。 | | | | | | | | | | | |
| ディプロマ・ポリシー(DP) | 主要なDP | G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断) | | | | | | | | | | |
| | 関連するDP | F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。(技能・表現) | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護活動における管理の構成要素とその目的が理解できる。 2. 公衆衛生看護管理の一機能である地域診断の目的・意義が理解できる。 3. 既存の資料の収集・分析ができる。 4. 地域住民のニーズを把握する方法ができる。 5. 地域に顕在あるいは潜在化する健康問題の分析方法が理解できる。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法(基準) | 授業内課題(40%)と定期試験(60%) ※授業の3分の2以上出席していない者は受験資格がありません。 | | | | | | | | | | | |
| 再試験の有無と基準等 | 科目の可否で不合格となった者は再試験を実施する。なお再試験は筆記試験とし、それまでのレポート課題は再試験の評価に加味しません(追試験対象者はその限りではない)。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 標準保健師講座 第1巻 地域看護学概論(医学書院) 標準保健師講座 第2巻 地域看護技術(医学書院) | | | | | | | | | | | |
| 参考書等 | 国民衛生の動向, Theory at a Glance 日本語版(国立保健医療科学院), ヘルスプロモーション(ローレンスW. グリーン, 訳: 神馬征峰等), 他, 必要に応じて適宜紹介します。 | | | | | | | | | | | |
| 学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待 | 公衆衛生看護活動における管理の実際、また根拠に基づいた地域看護活動を展開していく上で基本となる地域看護診断が具体的に理解できるように演習を織り交ぜていきます。地域看護診断が身近に感じられるよう、積極的に授業に参加し習得してください。 | | | | | | | | | | | |
| 備考 | 公衆衛生看護方法 I、II を修得していないと履修できません。 | | | | | | | | | | | |
| 回 | 学習項目 | | | | 学習内容 | | | | 主担当教員 | 授業方法 | | |
| 1回 | 公衆衛生看護活動における管理・地区活動の特徴・地域診断のモデル 地域看護診断の展開① (情報収集) | | | | 公衆衛生看護活動における管理の構成要素とその目的を学ぶ。地区活動の特徴と地域診断に関連するモデルを再復習する。既存の資料や保健衛生データの活用法を学び、保健衛生データが示す意味を理解する。また、住民ニーズの把握方法の一つであるFGIについて理解する。 | | | | 中北 | 講義 | | |
| 2回 | 地域看護診断の展開② (計画立案) | | | | | | | | 中北 | 講義 | | |
| 3回 | 地域看護診断の展開③ (評価とPDCAサイクル) | | | | 保健事業や地域健康課題の評価について理解し、政策化について考える。 | | | | 中北 | 講義 | | |
| 4回 | 地域看護診断の展開④ (住民組織支援、ケアシステムの構築、政策化) | | | | 住民組織・学校・産業など多機関連携における保健師の役割りについて理解する。地域保健活動に住民が参加する意義と地域ケアシステムの発展過程・システム構築・ネットワーク化について学ぶ。 | | | | 学外協力者 | 講義 | | |
| 5回 | 保健医療を取り巻く基本的な状況 | | | | 地域看護診断におけるアセスメントが理解できる。 | | | | 中北 | 講義 | | |
| 6回 | 地域看護診断の実際① | | | | 演習に向けて保健医療を取り巻く基本的な状況の整理する(地域特性、人口および人口動態、保健医療施設の状況、受療動向等)。 | | | | 中北 | 講義 | | |
| 7回 | 地域看護診断の実際② | | | | グループに分かれて、実際に対象市町の量的情報・資料を収集し、地域特性について検討する。 | | | | 中北 清水 他 | 演習 | | |
| 8回 | 地域看護診断の実際③ | | | | グループに分かれ、対象市町の 母子の健康課題 を検討する。 | | | | 中北 清水 他 | 演習 | | |
| 9回 | 地域看護診断の実際④ | | | | グループ発表を通じ、他の市町の健康課題の特徴を学び、対象市町の健康課題をさらに詳細に検討する。 | | | | 中北 清水 他 | 演習 | | |
| 10回 6/18 | 地域看護診断の実際⑤ | | | | グループに分かれ、対象市町の 高齢者の健康課題 を検討する。 | | | | 中北 清水 他 | 演習 | | |
| 11回 | 地域看護診断の実際⑥ | | | | グループ発表を通じ、他の市町の健康課題の特徴を学び、対象市町の健康課題をさらに詳細に検討する。 | | | | 中北 清水 他 | 演習 | | |
| 12回 | 地域看護診断の実際⑦ (質的情報収集) | | | | 質的情報を収集する際のリテラシーについて理解する。 (学外協力者招聘) | | | | 学外 協力者 | 演習 | | |

| | | | | |
|-----|-------------------------------|--|---------------|----|
| 13回 | 地域看護診断の実際⑧ (地域診断のまとめ) | グループに分かれ、対象市町の健康課題とその優先順位を検討し、整理する。 | 中北 清水 他 | 演習 |
| 14回 | 地域看護診断の実際⑨ (インタビューガイドの作成①) | グループに分かれ、対象市町の健康課題を更に明確にするためのインタビューガイドを試作する。 | 中北 清水 他 | 演習 |
| 15回 | 地域看護診断の実際⑩ (インタビューガイドの作成②) | 対象市町におけるキーインフォマントの選定とインタビュー項目の精製を図る。 | 中北 清水 他 | 演習 |

学 習 課 題

公衆衛生看護学方法 I で配布した資料(母子/成人・高齢/精神/障がい/難病/感染症)は、本科目受講前に再度復習しておく。

また、本科目受講の際は、必ず上記資料をご持参ください。

第7、9、13回に個人課題の提出。

第9、11、14、15回にグループ課題の提出。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。

・行政機関や学校等において保健師や養護教諭として実務に携わった教員が指導する。また、実習施設では実務指導者から指導を受ける。